



学校だより



「節目（ふしめ・せつもく）」

校長 宇野 宏之祐



間もなく令和7年度が終わります。学校では、卒業式・修了式に向けた準備が進み、それぞれの学部や寄宿舎では「お別れ会」「卒業生を送る会」「進級を祝う会」など、この時期ならではの行事を企画して子供たちの成長を共に喜んでいきます。

学校現場では、いわゆる「節目（ふしめ）」となる時期には、子供たちが目に見えるように成長していく様子を強く感じる場合があります。子供たち自身は日々の連続性の中で、少しずつ成長しているのですが、こうした節目の時期に学校にいと、まさに昨日までの蕾が今日開花したかのような様として、子供の成長の姿を捉える経験をします。

「節目（ふしめ）」とは、材木や竹の節（ふし）があるところを指しましたが、転じて、次の段階や次のステージへ進むための境界線のような意味として使われるようになりました。道民にはあまり馴染みのない「竹」ですが、竹林近くで育った本州生まれの私にとっては、節（ふし）があることで一晩で目を見張るような成長をたどることのできる「竹」の姿は、子供が時折見せる成長の様子と重なり、とても腑に落ちる言葉です。ちなみに、もし「竹」に節目が無く中が空洞のみであれば、成長するためのエネルギーは少なく済むだけではなく、全体の重量も軽くなり成長が一層促されそうにも思いますが、実際にはあれほど高く強く伸びることはできないそうです。節目があるからこそ、高くなった自重を支え、さらには風などの外的要因にも耐え得るしなやかさを身に付けることができるということです。

このことは子供の成長にも置き換えることができます。日々の生活で得た養分（食事、経験、学習内容 etc）が節目（ふしめ）で一気に成長の姿を見せてくれます。こうした子供の姿は、学習発表会など大きな行事でも見ることができます。子供にとっての節目がこれからの人生を支え、困難さといった外的要因に対峙してもしなやかかつたたかに生きていくことのできる強さへと繋げてくれることでしょう。

節目は「せつもく」と読むこともできます。「節目（せつもく）」と読むときは、物事の細かな区切りを指す意味合いとなります。確かに卒業や修了、進級も一つの「区切り」ではありますが、学校で見られる子供の成長の姿は、「節目（せつもく）」よりも「節目（ふしめ）」の表現が合っているように思います。ご家庭や地域でも、「節目（ふしめ）」をお子さんと共に喜びください。

最後に、この1年間の子供たちの学びを支えてくださった、地域の皆様に心からの感謝を申し上げます。

4月の主な予定

8日（水）始業式・着任式・入学式
 9日（木）中）入学進級を祝う会
 10日（金）乳）開級式
 13日（月）尿検査（1次）
 14日（火）歯科検診

17日（金）幼）かんげい会
 小）進級を祝う会
 21日（火）眼科検診
 22日（水）避難訓練
 24日（金）参観日・三者懇談

幼稚部 おわかれ会

2026.3.13



小学部 卒業生を送る会

2026.3.6



中学部は、今年度卒業生がいなかったため、23日(月)に1年を振り返る会を行いました。今年度1年を振り返り、次年度に向けた抱負を発表しました。

修了・卒業
おめでとうございます

幼稚部 1名修了

小学部 2名卒業

来年度の児童生徒会役員決定!



感謝

北海道室蘭聾学校は
来年度をもちまして
90周年を迎えます。